

③ 第3委員会

「科学の楽しさを身近に感じ、^{ゆた}豊かな発想を育むまちづくり」



それでは、第3委員会の意見を発表します。

第3委員会のテーマは、「科学の楽しさを身近に感じ、^{ゆた}豊かな発想を育むまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、7月22日に、科学館の施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、本物の展示^{てんじ}を見たり、実験や体験ができて、そのために学芸員さんが努力している姿^{すがた}を見ました。そして、気軽に実験や体験ができて、また目に見えないところで、学芸員さんがいろいろな工夫をして、科学の楽しさを身近に感じられるようにしていることに気がつきました。

その後、^{わたし}私たちは、施設見学^{しせつ}をしてわかったことや気づいたことをもとに、名古屋を「科学の楽しさを身近に感じ、^{ゆた}豊かな発想を育むまち」にするためには何をすればいいか、考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

僕は、科学の力で楽しく体験しながら夢をかなえられるために学べたらいいと思います。例えば通信会社のCMのように、等身大に映る大スクリーンで、離れた二つの場所をインターネットでつないだら、憧れの海外の学校のレッスンを名古屋にしながら受けられるかもしれません。

また、名古屋と陸前高田市や熊本市の学校の教室をつないで、お互い地理や歴史を紹介し合ったり、一緒にレクリエーションをすれば、たくさんの子どもの何回も交流することができます。海外の学校とつないで、言葉や文化と一緒に学べば、海外に友達ができるかもしれません。このように、科学を持って親しんで、自分の世界を広げることが必要だと思います。

○子ども議員

私は、プラネタリウムの星を見たことで、夜にはこんなにたくさんの星があるんだなと知り、興味を持ちました。なので、私はもっとたくさんの人に本物に近い星空をプラネタリウムで見てもらいたいです。

見てもらえたら、星に興味を持ち、星から科学の楽しさを感じてもらえると思ったからです。また、科学の楽しさを特別展などで感じてもらえるといいと思います。

○子ども議員

科学に、自分の世界とは別物で難^{むずか}しいと思うイメージはないでしょうか。私^{わたし}は、名古屋を「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな^{ゆた}発想を育むまち」にするためには、科学を身近なものだと感じる事が大切だと考えました。自分たちにとって、物すごくおもしろい世界でも、科学とは関係ないと思う世界で活躍^{かつやく}する人から、科学とつながっている話を聞けたり、そんな世界の科学的な体験を自分たちができる機会を多く持つことで、将来さまざまな世界で科学の知識^{ちしき}を生かした豊かな^{ゆた}発想で社会をつくっていけると 생각합니다。

○子ども議員

私^{わたし}は、科学館を見学して、楽しい科学館を^{ささ}支えているのは学芸員さんで、お客さん全員に科学を身近に学んでもらおうという学芸員さんの思いがあるから、毎年約140万人のお客さんが来るんだなと思いました。

「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな^{ゆた}発想を育むまちづくり」には、学芸員さんの仕事をみんなに知ってもらって、科学館に^{きょうみ}興味を持ち、科学やいろいろなことに疑問^{ぎもん}を持ち続けて、それを解決^{かいけつ}することが大切であると私^{わたし}は考えました。

○子ども議員

^{わたし}私は、実験で南極の氷には何万年か前の空気が入っていて、解^とけるときにぱちぱちと音が鳴ることを知りました。ほかにも南極で
実^{じっさい}際に使っていた雪上車^{てんじ}を展示するなど、実物を使う、展^{てんじ}示するとい
うことにすごくこだわっていることがわかりました。そして、実
験のときに学芸員さんがわかりやすく説明してくれるので、小さな
子にもわかりやすいと思います。^{わたし}私はこのように、いろいろな工夫
で科学に誰^{だれ}でも興^{きょうみ}味が持てると思いました。これで私^{わたし}の発表を終わ
ります。

○子ども議員

^{わたし}私は、まず解^{かいせつ}説に振^ふり仮^が名^ながついていることに気がつきました。
振^ふり仮^が名^ながついていると、小さな子どもでも読めて、とてもよいと
思いました。そのほかにも、わかりにくそうな説明には、図、写真
などが載^のっていました。また、実^{じっさい}際に体験したり、目の前で実験し
たりするコーナーもあって、よりわかりやすく科学を楽しく学べる
工夫がたくさんありました。そして、みんなの興^{きょうみ}味が湧^わくような催^{もよお}
しをすることも大切だと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、今まで科学の楽しさを身近に感じていたのかなと思い、少し考えてみました。科学館はプラネタリウムや魅力的な展示がいっぱいあって、あっという間に時間が過ぎ^すてしまうところです。その中で、^{わたし}私はふだんの生活にも科学はたくさんあることに気づきました。科学館だけでなく、学校でも科学について調べたり実験したりしたいです。このような機会をふやし、名古屋のたくさんの人にも科学に親しんでほしいと思います。これで終わります。

○子ども議員

^{わたし}私は、「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな発想を育^{ゆた}おまち」にするためには、今ある科学館にたくさんの人に来てもらうことです。そのためには、各区の日をつくり、その日には、その区の人たちを科学館に招待^{しょうたい}し、科学の楽しさをもっともっと知ってほしいです。あと、夏休み等の長い休みのときには、ポイントカードをつくり、例えば10回来たら、いつもはできない体験ができるなどをすると、人が来るのではないかと思います。以上で発表を終わります。

○子ども議員

私は、科学館へ行き体験して、科学の楽しさというものを知りました。今まで科学館には行ったことがあったけれども、まだ行ったことのないところまで科学館の人は案内してくれたので楽しかったです。科学館に行っていていいなと思ったことは、体験することが多いということです。体験することによって、子どもから大人まで科学館を楽しめると思いました。こうしたほうがいいなと思ったことは、実際に自分で実験したり、何かをつくったりすることができると、より楽しくなるだろうなと思いました。私は科学が大好きなので、図書館のように科学館がふえたら、もっとよい名古屋市になると思いました。これで終わります。

○子ども議員

名古屋を「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな発想を育むまち」にするには、科学館などの工夫が大切だと思いました。本物の展示やわかりやすい解説があることで、科学館に行きやすいことなので、たくさんの人が来ると思いました。

○子ども議員

私は、施設見学をして、お客さんのために学芸員さんが努力していることが印象に残りました。プラネタリウムで学芸員さんがお客さんの雰囲気に合わせて機械を操作していることはとても驚きました。今まで何を話すか、どのように機械を操作するかは、あらかじめ決めていたかと思っています。ほかにもお客さんが科学の楽しさを身近に感じられるような工夫がたくさんありました。名古屋を「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな発想を育むまち」にするためには、まず私たちが学芸員さんの努力に気づくことが大切だと思います。以上で私の発表を終わります。

○子ども議員

今回、科学館の施設見学に参加して、本物の展示物を身近に感じることができると思いました。本物を手にし、見ることによって、そのものの特徴を体全体で感じることができ、物の歴史や物事の基本を考えることで、難しいと思っていた科学が楽しく、わかりやすく学べることができました。

今後体験できる本物の展示物がもっとふえればいいなと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、科学館の見学をしてきました。そこで^{てんじ}展示品はなるべく本物を^{てんじ}展示していたり、体験できるようになっていることを知りました。そこで、なるべく実物に^ふ触れて、ああ、これやってみたいとか、おもしろそうと思ってみんなが進んでやりたくなるような体験や、ここでしかできないことをみんなで楽しんで^ふ触れることによって、「科学の楽しさを身近に感じ、^{ゆた}豊かな発想を育むまち」にできると思いました。

^{わたし}私たち第3委員会は、このようなことが名古屋を「科学の楽しさを身近に感じ、^{ゆた}豊かな発想を育むまち」にするために必要だと考えました。

これで、第3委員会の発表を終わります。



■ ^{やまだ}山田教育子ども委員長の答弁^{とうべん}

第3委員会の皆さん、素晴らしい意見発表をありがとうございました。

第3委員会の皆さんには、「科学の楽しさを身近に感じ、豊かな発想を育むまちづくり」、これをテーマに、子ども委員長初め13名の皆さんに活発に議論をしていただきました。

最初、第3委員会は、男の子が2人、そして女の子が11名ということもありましたし、最初に委員長、副委員長を決めるときにも、立候補者がたしかそれぞれ2名ずつだったかな、非常に少ない立候補者でありましたので、委員会、ちゃんと活発に議論できるかな、非常に不安に思ったところでもあります。

ただ、実際には意見集約のときに、子ども副委員長が意見をしっかりと仕分け、集約をしていただいて、きょうこの場で意見発表をしていただきましたが、委員会室での委員会の練習が、2日目、全く時間がとれないぐらい意見を活発に皆さんで言っていた、そういった非常に見た目や、最初のところは、うんと思ったところもありましたが、最終的には皆さんが活発に議論をしていただいた、そういった熱い熱い第3委員会ではなかったかなと思っています。

初日に施設見学を行いました科学館、南極観測60周年の記念特別展、またプラネタリウムを皆さんで見学に行きましたが、そのときにもどうやって特別展を展示すればいいのか、そういった工夫をした点、またプラネタリウムも裏方の部分を、陰で支えていただいている学芸員さんの姿を皆さん間近で見ることができ、今回の意見発表にも反映ができたのではないかなと思っています。



皆さんの意見の中には、気軽に実験や体験、そういったことができて非常に科学の楽しさを身近に感じることができた。また、学芸員さんたちがいろんな工夫を、また裏でいろんな努力をされている、そういったことがわかったという意見もたくさん出していただきました。

今回の第3委員会の皆さんのいただいた御意見を、我々の教育子ども委員会でもしっかりと反映をしていきたいと思っております。

皆さんにも今回のこのなごや子ども市会を機会に、今回のまた経験や体験を通じて、名古屋を改めて、そして科学に対して改めて見詰め直してほしい、そんな気持ちであります。

最後に、私だけではなく、北野副委員長、そして佐藤副委員長、指導主事の先生、議会事務局の皆さんの御協力があったからこそ、今回の委員会、しっかりと議論ができたと思います。皆さんにもそういったいい思い出をつくっていただいたことを感謝を申し上げながら、私の御挨拶とさせていただきます。本当に第3委員会の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

